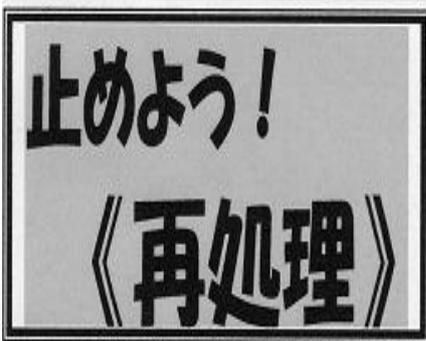


## 三陸の海を放射能から守る 岩手の会

郵便振替 02240-5-102650  
ホームページ《再処理／岩手の環境》  
<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>  
《まった再処理分庫》  
<http://briefcase.vahoo.co.jp/kimag>



## 《天恵の海》

2013(平成25)年  
5月 11日  
第127号  
編集事務局 S.Oshida  
TEL・FAX 019-623-1636

# 子供たちに、被ばくのない世界を! 「原発稼働ゼロの日」から一年

## 鯉のぼり



盛岡市内幼稚園で

昨年の五月五日のこの日を、私たちは日本の原発が「稼働ゼロ」となって迎えました。が、大部分の国民の大反対にもかかわらず野田内閣は大飯原発を無理やり動かし、「稼働ゼロ」は五七日でストップ。しかし去年の夏は「原発なしでも電気は十分」ということが国民の前で実証されました。福島原発事故の悲惨な現実を体験してなお、未だに原発にしがみつき、国民を危険な目にあわせようとする原発推進の利権集団を許すことは出来ません。岩手でも、「核被ばくからの脱出」を目指して、多くの市民たちが運動を始めています。子供たちの未来のために、連帯を深め前進しましょう。

## 盛岡市議会

### 「被ばく低減化」請願採択



盛岡市庁舎と議会

盛岡市議会は、三月二七日の本会議で「子どもたちの放射線被ばくを低減化することに関する請願」を全会一致で採択しました。

この請願の内容は「盛

### 遠野市長へ要望書提出 放射能汚染牧草 焼却は危険

#### 焼却は危険

遠野市では、各農家が保管している汚染牧草計一五〇〇トンを、市内の青笹、宮守、附馬牛の三ヶ所の保管倉庫に六月末をめどに搬入し、焼却処理を加速させると伝えられています。放射性汚染物を一般焼却施設で焼却し埋設することは、放射性物質を環境に拡散させ危険です。煤じんや残灰が下宮守の静養園最終処分場で埋設され始めまし

## 岩手県知事へ監査請求 がれき広域処理の中止を

岩手県で発生した震災がれきについて、わざわざ県外に持ち出し一般焼却施設で焼却、埋設する措置がなされています。これは「放射能汚染の拡散」と「公金の無駄遣い」であり不合理の上ないことです。

宮古市の「汚染牧草焼却を考える宮古の会」(代表古館和子さん)ら岩手県内の市民団体有志六人が、四月二六日、岩手県庁を訪れ達増拓也岩手県知事に中止を求めて住民監査請求を行いました。

原発事故によって岩手県内にも放射能で汚染されたがれきや牧草、原木などが発生しました。これらの汚染物は焼却しても放射能は減りません。震災がれきは当初過大に見積もられ、国の復興予算中の「がれき処理費」は総額で約三六〇〇億円に達しました。この巨額の公金を「除染」に名を借りて利得を得ようとする利権集団がありその自由にさせてはなりません。

# 生活クラブ生協岩手が提出

生活クラブ生協岩手の工藤朋子理事長と八人の組合員が、四月九日、六ヶ所村を訪れ、「六ヶ所再処理工場の試験と本格稼働の中止を求める要望書」を日本原燃と六ヶ所村へ提出しました。日本原燃では、広報部から四人の出席があり工藤理事長が要望書を読み上げて手渡し、約一時間質問や意見のやりとりを行いました。更に六ヶ所村役場を訪問し、同趣旨の要望書を提出。企画・防災部門原子力対策課の職員三名が対応しました。

# 再処理工場の稼働中止 要望書

## 要望事項

六ヶ所再処理工場の試験および本格稼働を早期に中止することを要望します。

## 要望理由(要約)

- ・東北は日本の食糧基地であり、私たち生活クラブ生協の提携生産者の生産地でもあります。六ヶ所再処理工場により私たちの食が奪われることを危惧します。
- ・再処理工場下に活断層がありマグニチュード8クラスの地震が起きる可能性が指摘されています
- ・高レベル放射性廃液は電源喪失により冷却機能を失うと約24時間で沸騰します。膨大なセシウム137などが大気中に放出される危険があります。
- ・使用済み核燃料3000トンは満杯で危険な状態です。
- ・万が一過酷事故が起これば青森県全域と岩手県、秋田県、北海道の一部は半致死線量汚染地域になるなど広範な被害をもたらします。

以上の理由から、六ヶ所再処理工場の稼働中止を要望します。



## 株 日本原燃への申し入れ

**日本原燃でのやり取り  
食糧生産地・東北を放射能汚染から守りたい**  
工藤理事長はじめ組合員出席者は「日本の食糧生産地である青森・岩手など東北を放射能汚染から守りたい。取り返しがつかなくなる前に再処理をやめてほしい」と要請を行い、さらに「やめても再処理工場の廃止のためには、最新

の技術や作業が必要。そのためにお金が使われるなら私たちも納得する。方向転換をするのは今ではないか」という意見が出されました。原燃担当者は「個人的には気持ちわかるが、三・一一後も地元からの反対意見はなく、日本のこれからの経済成長や震災復興には電気Ⅱ原発は必要で、安全を最優先に再処理していきませ」という回答でした。  
**再処理の巨額コストや高濃度廃液について質問**  
「再処理のコストについて収支はどうなっているのか」「海へ放出している放射性排液について福島原発には濃度規制が有るが再処理工場にはない。どうなっ

生活クラブ生協岩手の要請行動についてホームページ『生活クラブ岩手』に報告が載っています。

<http://iwate.seikatsuclub.coop/news/2013/04/post-77.html>

## 再処理工場の新規制基準検討開始 原子力規制委員会

マスコミによると原子力規制委員会は四月五日から、使用済み核燃料再処理工場などの核燃料サイクル施設や研究炉の新しい規制基準の検討を始めたと報じられています。再処理工場と燃料加工施設に新たに過酷事故対策を求めるほか、対象が多様なため施設の危険度に応じた基準を作成する方針といっています。

再処理工場にはこれまで約二兆二〇〇億円の巨費が投じられ今後さらにこの数倍もの投資が必要で、しかし一ワットの電気を生み出すわけ

いるのか。」という質問がなされました。しかし内容のある回答は得られませんでした。  
生活クラブ生協による、食を守りたいという切実な視点での申し入れに、日本原燃担当者は幾分共感するような表情も見せていました。

## 六ヶ所村役場でのやり取り

本来の自立の道は？

村担当者からは、現人口一万一千人中原燃関係社員が約二千人という村経済の現状を聞き取りました。実際に村に住む人たちの苦悩が心に響きました。しかし、組合員から「他人のお金は身につかないのでは？」という意見が出され、担当者からは「村長は交付金を使って交付金に頼らない自立した村の確立を目指している」という言葉がありました。